一宮館主長賞

たなか まさゆき
田中 匡之

『天国の母へ』

そっちはどう？元気？

こっちは父ちゃんも宏治も俺も元気だよ。

聞いてよ母ちゃん！あの父ちゃんが毎日掃除しているよ！

聞いてよ母ちゃん！俺が家に行くはずっと母ちゃんの話をしているよ！

「母さん、これが好きだったな」

「部屋汚したら母さん怒るからな」

「この時計はまだ付き合っていた時にプレゼントしたやつなんだ」

「母さんは本当に気丈な人だった...」

本当に好きだったんだな母ちゃんのことを。

何で生きている時に労わってあげなかったんだよ、
と言いたくなるよ。

喧嘩ばかりしていたよね。何で死んでから言うんだよ。

後悔しているみたいだよ。もっと優しくすれば良かった。

もっと旅行に連れていきたかった...だって。

でももういないもんね。でも気持ち通じているでしょ。

肉体はないけど魂は不滅だもんね。

俺は母ちゃんに威張る父ちゃんが嫌いだった。

怒鳴ったり、暴言を吐く父ちゃんが大嫌いだった。

こんな男にならないと決めていたよ子供の時から。

俺は人に絶対威張らないと決めたんだ。

父ちゃんみたいな男にならないと決めた。

そしてまったく逆のことをやるようになったんだ。

でもね母ちゃん。今は父ちゃんが好きなんだ。

本当は母ちゃんを好きだったことが分かったから。

それを教えるために天国に旅立ったのかなと

今は思えて仕方がないよ。

これからも天国で見守っていてね。

家族仲良く、幸せに生きていくよ。

母ちゃん、俺を生んでくれてありがとう。

(埼玉県／38歳)

社会福祉法人愛の友協会